



新東名高速道路建設に伴う発掘成果

にしとみおか むこうぼた 西富岡・向畑遺跡

主催 (公財)かながわ考古学財団

共催 伊勢原市教育委員会

旧石器時代の石器群と縄文 時代の住居の発掘

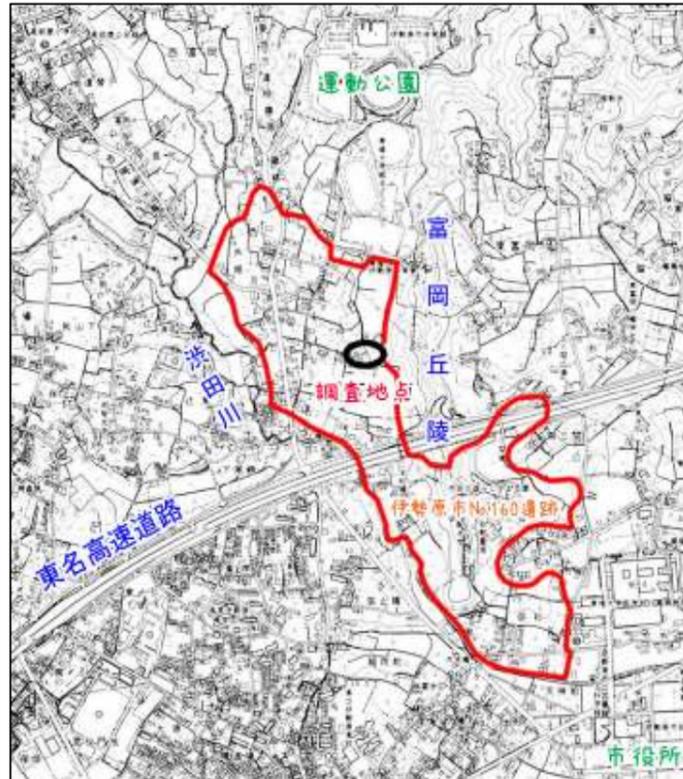
にしとみおか むこうぼた
西富岡・向畑遺跡の発掘調査

伊勢原市西富岡に所在する西富岡・向畑遺跡は、中日本高速道路株式会社が計画する新東名高速道路建設に伴う事前調査として、2007年4月から発掘調査を実施しています。

西富岡・向畑遺跡では、これまでの調査によって、中世の建物跡、古墳時代末から平安時代にかけての集落跡、縄文時代中期から後期にかけての台地上の集落跡、谷部からはクルミやトチの実などの堅果類が多数出土した水場遺構などが発見されており、たくさんの遺物が出土しています。今回は、旧石器時代と縄文時代の遺構・遺物を中心にこれまでの発掘調査の成果の一部を紹介します。



15区 旧石器炭化材調査状況



遺跡の位置

これまでの主な発見遺構と出土遺物

—発見遺構—

中・近世: 竪穴建物、掘立柱建物、地下式坑、地下室、道、溝、井戸、土坑 など

古代(奈良・平安時代): 竪穴住居、竪穴状遺構、掘立柱建物、円形土坑、土坑 など

縄文時代: 敷石住居、集石、配石墓、埋甕、带状粘土列、水場遺構 など

旧石器時代: 礫群

—出土遺物—

中・近世: 陶磁器・かわらけ・硯・宋銭・炭化柿 など

古代(奈良・平安時代): 土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、銅製品(銚子金具...巡方・丸鞘)、金銅製品(飾り金具)、鉄製品(刀子)、石製品(砥石)、温石、土製品(土錘)など

縄文時代: 縄文土器、打製石斧、磨製石斧、管玉、石棒、石皿、石鏃、堅果類など

旧石器時代: 槍先形尖頭器(安山岩)、剥片(黒曜石)など



炭化材出土状況

上の写真は、旧石器時代の炭化材出土状況です。左の写真の赤い点は、竹櫛を赤く塗装したもので、微小な炭化物が見つかった地点を指しています。右の写真は微小な炭化物を取り除いた写真で、炭化材は100cm×90cmの範囲で見ついています。炭化材はB1相当の層位から見つかり、およそ1万9千年前の時期になります。同様な時期の炭化材は、用田鳥居前遺跡からも出ています。



6区J6埋甕 断面



6区J11号敷石住居 全景

左の写真は埋甕の断面で、ほぼ完全な形で見つかり、正位の状態で埋まっていた。

右の写真は敷石住居で、住居部分の直径が4.2mで、張り出し部分まで含めた長さは5.9mを測ります。主体部の中央部分に炉が見つっています。両方とも縄文時代後期に位置づけられます。



新東名高速道路建設に伴う発掘成果
西富岡・向畑遺跡(伊勢原市No.160)

2015年11月21日

公益財団法人かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜南区中村町3-191-1

TEL 045-252-8689 <http://kaf.or.jp/>

「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」

およその年代
3500年前 1500年前 2500年前 1700年前 1300年前 800年前 400年前 150年前

旧石器時代 縄文時代 弥生時代 古墳時代 古代 中世 近世

赤丸は、今回の調査で発見された遺構・遺物のおおよその時期を示しています。

縄文時代竪穴住居の分布



14区北
中期後半の竪穴住居跡

14区北 東側の竪穴住居跡群

埋篋(うめがめ)

14区 中期後半の敷石住居跡

6区北 縄文時代全景

10区西 中期中葉の竪穴住居跡

出土したクルミとトチの実

1区 水場の木組遺構(木の葉の水さらしなどで使われた)

5区 後期前半の敷石住居跡

- 縄文時代中期中葉
- 縄文時代中期後半
- 縄文時代後期前半

